

# 徳島大学 留学生センターニュース

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>

No.3

2004.7.1

## 特集 留学生センターの使い方

### これからの国際交流のあり方

学長補佐（国際関係担当） 永田俊彦



国際関係担当の学長補佐として徳島大学の国際交流に携わることになりました。よろしくお願ひ申し上げます。さて、本年4月からの独立行政法人化に伴い、大学のあり方が大きく変わりつつあります。徳島大学も中期目標に沿った活動が精力的に展開されており、そんな中、教育、研究、医療、社会貢献などどれをとってみても国際的活動は重要項目として欠かせない事項です。これら国際関係についての項目を一定の理念のもとにとりまとめ、徳島大学の国際交流の個性を示しながら国際活動を高めていくのが私の仕事であろうかと理解しております。

4月に学長補佐に就任して以来、留学生専門委員会、国際連携推進室会議などの会議を主催するかたわら、北島町国際交流協会の総会や徳島県国際交流協会の会議に出席する機会を持ちました。ここでは、留学生を思いやる多くの教員や事務職員に加え、国際交流に熱意をもって活動している多くの一般の人々がいることに圧倒されました。先日は、国際交流会館入居者オリエンテーションに参加し、20名程の多国籍の留学生を相手に日常生活指導と質疑応答の場を持ちまして、自由な話し合いの中で何かしら新鮮な気分になることができました。私自身、15年程前にカナダで2年間の研究生生活を経験しましたが、誰もが味わう外国での不自由さを思い出しながら彼らと接した貴重な時間でした。一方、彼らの表情に暗さを感じないのは時代の差なのかあるいは日本人との国民性の差なのかとも感じましたが、それはそれとして、徳島大学のグローバル化が実際の現場で着実に進んでいることを実感しました。このような行事を通じて、国際交流も学生教育と同様、現場を理解することが大切であることを再認識している次第です。

さて、現在の徳島大学の国際交流の現状をみると、非常に活発に行われていることを頼もしく思っております。しかしながら、その交流は個人単位や学部単位での交流であることが多く、大学全体での交流を行うまでには至っていないように思われます。中期目標にも掲げられている教員や学生の相互交流、単位の互換、質の高い学生の受入れなどを成功させるためには、すべての学部を巻き込んだ大学単位という形で現在の姉妹校あるいは新たな姉妹校を発展させること、またグローバル化に対応できる学内での教育研究システムの構築を推進する必要があるものと考えております。現在、国際交流に関する本学の基本方針（国際化ポリシー）の策定を検討中です。これまでの徳島大学での国際交流活動を足場として、特色あるポリシーを提示し、それが現場に反映できるよう努力していく所存ですので、改めてよろしくお願い申し上げます。

## 留学生支援室

蔵本会館2階に4月19日「留学生支援室」がオープンしました。

この支援室は、月曜日から金曜日までの午前10時から午後5時（火曜日及び金曜日は、午後5時30分）の間、留学生課事務員と留学生センター教員が勤務しており、留学生の方々の相談に応じてサポートします。トラブル、悩みなどありましたら何でも結構ですので相談にきてください。

また、支援室には、テレビ、マルチビデオシステム、CDプレイヤー、パソコン5台、新聞及び雑誌など用意していますので、気軽にご利用ください。留学生との交流の場としてもご利用ください。お待ちしております。

### 【開室時間】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
10:00 ~ 12:00	柴田	柴田	柴田	柴田	柴田
13:00 ~ 17:00	柴田	坂田・柴田	柴田	柴田	金・柴田

(但し、火・金曜日は17:30まで)

### 【スタッフ】

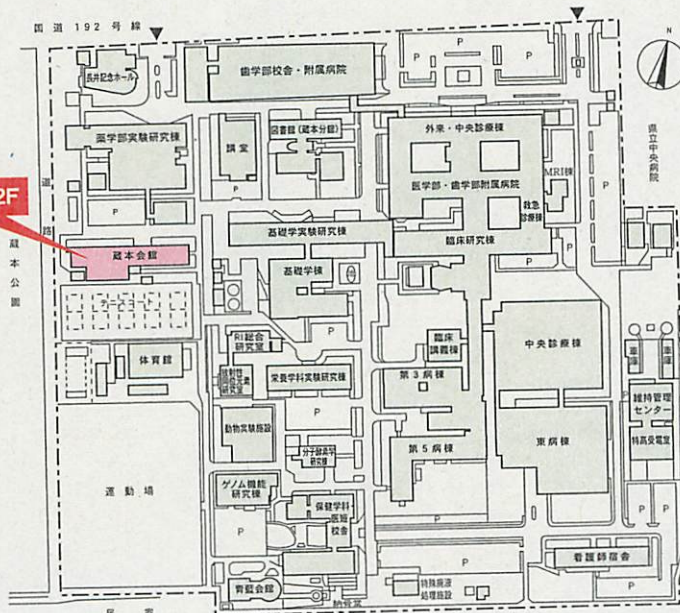
きん 金	せい かい 成 海	留学生センター 教授 (指導・相談部門) E-mail:kin@pm.tokushima-u.ac.jp Tel:088-656-7543 (内 4778)
さか 坂	た ひろし 田 浩	留学生センター 助教授 (海外派遣部門) E-mail:kobayasi@ias.tokushima-u.ac.jp Tel:088-656-7199 (内 2206)
しば 柴	た さち こ 田 幸 子	学務部留学生課事務員 E-mail:ryugaku@ias.tokushima-u.ac.jp Tel:088-633-7398 (内 7398)



(写真：留学生支援室前にて  
左から市川センター長、柴田さん、金教授、坂田助教授)



蔵本会館 2F



**特集** 留学生センターの使い方 基礎編

## こんなときは留学生課へ

**外国人留学生の皆さんは・・・****1. 入国管理局への代理申請**

以下の申請を代理で行います。

在留資格更新許可・・・在留期限の切れる2ヶ月前から受け付けます。

在留資格変更許可・・・在学生のみ受け付けます。配偶者等は個人で行ってください。

資格外活動許可・・・アルバイトをしようとする場合は必ず許可を受けてください。

再入国許可・・・一時帰国等で日本国外へ出国するときは、必ず許可を受けてください。

在留資格認定証明書交付申請・・・配偶者、子供を家族滞在ビザで呼び寄せるとき。両親、兄弟等はこの対象ではありません。

**2. 奨学金の申請**

奨学金の情報は掲示板に掲示します。申し込みたい奨学金があれば留学生課（蔵本地区は各教務係）に書類を取りに来てください。

**3. 国際交流会館の入居申請と延長申請**

国際交流会館の新規入居の時期は4月と10月です。入居、延長とも申し込み時期は1月頃と7月頃です。

**4. 医療費補助申請**

国民健康保険を使って医療機関で受診した場合、料金の一部が補助されます。申請様式に記入し、医療機関発行の領収証を添えて提出してください。

**5. 住宅総合補償制度**

民間のアパート等に入居するときには必ず加入してください。

**6. 日本語研修コース、全学日本語コースへの申し込み**

4月頃、10月頃の年2回、日本語を勉強したい人の申し込みを受け付けます。詳しくは4ページ⇒

**日本人学生の皆さんは・・・****1. 短期語学研修の申し込み**

大学主催の1ヶ月程度の語学研修（中国、アメリカ、イギリス）の申し込みを受け付けます。

**2. 交換留学の申し込み**

協定校で一定期間学びたい場合に申し込んでください。ただし、授業料、派遣可能な専攻、語学力等に条件があります。申し込み時期は11月頃です。

**3. 留学届の提出**

海外留学をする人は、交換留学、私費留学（語学研修を含む）に関わらず、留学2ヶ月前に留学届を提出してください。大学で主催する語学研修の場合、留学届の提出がなければ単位認定ができません。

**4. 学生サポーターの申し込み**

留学生の日本語学習の手助けをしてくれる学生サポーターに参加したい人は、センターのホームページや掲示を見て、申し込み書を留学生課に提出してください。春の募集は終わりました。秋の募集をお待ちください。

## 特集

## 留学生センターの使い方 基礎編

## 日本語が勉強したい！そんな時は・・・

## ●全学日本語コース

本センター2年目の目標の1つは、全学日本語コース（補講）の整備・充実で、昨年度よりシラバスの設定・指導技術の研究等いろいろ準備してきました。クラス編成に関してもアンケートや教員・留学生の声をもとに常三島・蔵本キャンパス共に大きく組み直しました。

初級レベルの「日本語A」中級前後の「日本語B」中級以上の「日本語C」に集中講習的な初級特別クラスの「日本語S」を新しく作りました。「日本語S」は週3日、「日本語A～B」は週2日、「日本語C」は週1回で、留学生の揃う5月から7月末まで行われます。どのクラスも徳島大学の方針である「使える日本語」をそれぞれのレベルに応じて目標としています。また、学部や院の学生からなる「学生サポーター」と地域の方々からなる「地域サポーター」の皆さんが、変換練習や会話練習等の相手や教室外での日本語での活動の手助けをしてくれています。留学生と日本人が共に日本語学習を通して、理解しあうことも目的の一つです。

## ●共通教育「日本語」・「日本事情」（学部学生のための日本語）

2004年前期は、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情」計7クラスを約20名の学部学生に対して開講しています。「日本語」は1級レベルのより高度な表現力と正確さを身につけることを目的とし、「日本事情」は、情報収集や実際のコミュニケーションを重視したプロジェクトワークを日本人学生との協同で行っています。さらに毎年7月の七夕パーティでは学生らのお国自慢料理によって学内外の参加者ととも交流を深めています。

## ●日本語研修コース

2004年度春期も、広く学内募集を行い、大使館推薦の国費留学生とともに、週5日、1日約4.5時間の日本語の授業を行っています。徳大の留学生センターの目指す日本語教育は、「使える日本語」の修得です。そのために、ホームステイをはじめ、学生サポーターや、地域サポーターとの練習などを盛り込んでいます。日本語研修コースの学内募集や、サポーターの登録については、留学生センターのホームページをご覧ください。現在、60名近いサポーターが、留学生の日本語学習を支えています。

## 日本語授業開講状況（2004年度4月～9月）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
10:25～11:55	日本語研修コース 日本語C（蔵本）	日本語研修コース	日本語研修コース 日本事情Ⅰ	日本語研修コース 日本事情Ⅱ	日本語研修コース
12:50～14:20	日本語研修コース 日本語B（蔵本）	日本語研修コース	日本語研修コース 日本語A（蔵本）	日本語研修コース 日本語B（蔵本）	日本語研修コース 日本語A（蔵本）
14:35～16:05	日本語研修コース	日本語研修コース 日本語Ⅱ	日本語研修コース	日本語研修コース	日本語研修コース 日本語Ⅰ
16:30～18:00	日本語A（常三島）	日本語S（常三島） 日本語C（常三島） 日本語Ⅰ	日本語S（常三島） 日本語B（常三島）	日本語A（常三島）	日本語S（常三島） 日本語B（常三島） 日本語Ⅱ

\*火曜日の『日本語S』は、16:50～18:20です。

\*『常三島』『蔵本』とキャンパス名が書かれていない授業は、全て常三島キャンパスで開講されています。

それぞれの受講については、センターホームページ、学内掲示板、留学生に配布する英文の案内、学内の全教員に配布する『日本語教育プログラム案内』を見て情報を得てください。

## 特集

## 留学生センターの使い方 基礎編

## 留学を考えたら・・・

## 「長期留学生派遣制度」の開始について▶▶▶

今年度より、従来の「短期留学推進制度」に加えて「長期留学生派遣制度」が始まりました。募集対象等は下記のようになります。詳細については留学生課に問い合わせてください。

- (1) 募集人員：80名程度（全国で）
- (2) 募集分野：派遣先で「修士」又は「博士」の学士取得が可能な分野（芸術の実技分野を除く）
- (3) 派遣期間：「修士」の学位取得を目的とする者（2年以内）
- (4) 待遇：奨学金月額175,000円～105,000円
- (5) その他：「学士」の学位を取得（もしくは取得見込み）している方は誰でも応募出来ますが、TOEFLもしくはIELTSのスコアが必要となります。TOEFLであれば、最低500点（PBT、CBTでは173点）、IELTSであれば、5.0以上が必要となります。

## 「留学相談について」▶▶▶

現在、留学生センターでは留学に関する各種相談を受け付けています。常三島地区では常時受け付けていますが、蔵本地区では火曜日の午後（13時～17時）相談を受け付けています。「語学が出来ないけど大丈夫なの？」、「費用はいくら位かかるの？」、「現地の安全は・・・？」などの質問も受け付けていますので、気軽に足を運んでください。無論、電子メールでも質問を受け付けますので、遠慮なくメールを出してください。

なお、今年度からは留学説明会を常三島地区と蔵本地区の両方で行います。留学に興味がある方は是非参加してください。

海外派遣部門 坂田 浩 Eメール：kobayasi@ias.tokushima-u.ac.jp

「短期留学推進制度」と留学用学内奨学金の  
締め切りについて▶▶▶

文科省「短期留学推進制度」、「徳島大学国際教育研究交流資金（常三島用）」及び「藤井・大塚国際教育研究交流資金（蔵本地区）」の締め切りは、例年通り11月末となる予定です。

これらの奨学金に応募される方は、事前に語学試験を受験しておくようにしてください。中国への留学を希望される方はHSK（漢語水平考試）を、英語圏への留学を希望する方はTOEFLを受験しておいてください。TOEICは受け入れ大学での選考において参考となりませんので注意してください。

## English Chat Room

第2回 7月6日(火) 17:30～  
常三島生協 2F カフェテリア  
参加無料

## 留学説明会

7月1日(木) 16:30～  
B402教室にて  
10月下旬～11月上旬にも予定しています。



## ビールとドイツ語と文学研究と… 私の留学時代



総合科学部 教授 桂 修 治

留学するよりも前のことですが、大学院生のころ、通訳のアルバイトをし、日本を訪れたドイツのスポーツ少年団の若者たちと1週間ほど生活を共にするという経験をしました。研究とは直接関係がないのですが、私にとってこの経験は、ドイツ留学への大きな動機となりました。朝から晩までドイツ語でいろいろな話をしていると、頭の中がドイツ語でいっぱいになり、夢までドイツ語で見るようになります。これは、教室でドイツ語を習っているのとはまったく違う状況です。彼らと一緒にビールでも飲みながら気分が盛り上がってくると、ドイツ語もぼんぼんと口をついて出てくるようになります。手足についていた重石が取れて、まるで羽でも生えたような気分です。心理的な抑圧が取れば外国語の習得は早い、ドイツ語上達のコツは、一言で言えば「一緒にビールを飲むこと」だ、と実感したものです。このようなことがあって2・3年がたったころ、ドイツ学術交流会 (DAAD) というドイツ政府系機関の給費留学生に採用されるという幸運が舞い込みました。留学先はボン大学とチュービンゲン大学。

当時 (1980年) のボンは、もちろん西ドイツの首都でしたが、議会など首都としての機能はボン市の近郊に置かれていました。今もボンの町の中心にあるのは大学です。私の通っていた文学部は、昔の大きなレジデンスの建物を大学に転用したもので、ここですごした時間、図書館の窓から見えるホフガルテン (大きな庭園) の景色は、今も鮮やかによみがえってきます。

大学でのドイツ文学研究も、私に大きな刺激を与えてくれました。とにかくよくディスカッションをすること、学生が積極的に発表することは、私にとっては目を見張るような体験でした。日本の大学で習っていたドイツ文学のテキストが、ゼミでの議論の中では、まるで違うもののように感じられるのです。私たちが日本語に訳したりしながら、いわば舐めるように読んでいたドイツ文学のテキストや論文などを、彼らはまさにパンでも食べるようにどんどん読んでゆき、それについて、活発な意見を交わすのです。このようなディスカッションの中で、私にとっては遠い世界にあるように思われたドイツ文学の世界が生き生きと目の前に立ち上ってくるのが、実感されました。

そのような世界で夢中になって泳ぎ回っているうちに、ボンでの1年はあっという間に過ぎ去りました。もう1年を過ごしたチュービンゲンは有名な古い大学町ですが、ここでもすばらしい友人に恵まれました。また、今から考えれば、たいへん密度の高い講義に出会うことができたのは、幸せでした。この地方の方言 (シュヴァーベン方言) には苦労しましたが。

外国語で話すことは、一面では大きな制約となりますが、多面では、日本の日常的な発想や言語習慣から開放してくれる面もあるように思います。外国語であるがゆえにむしろ自由に話せる、ということ。よくドイツの人々は固いとかまじめ、とか言われます。よく議論をし、理屈の通らないことには決して納得しない、というようなところは確かにまじめな感じはしますが、しかし、初対面の人にも率直に話しかけたり、ジョークを言い合ったりするところは、日本人には見られないところです。留学をとおして私が得たものは、何よりもまず、このような、日本とは大いに異なる文化圏での生活体験と、人々との交流です。このようなドイツという社会あるいはドイツの人々との交流の中で、今日まで自分の仕事を積み上げていくことができたことを、今も幸運に思っています。



1981年、ボン、ホフガルテンにて、  
後ろの建物はボン大学文学部

# 平成 15 年度 徳島大学外国人留学生名簿

平成 15 年 10 月～平成 16 年 3 月入学者

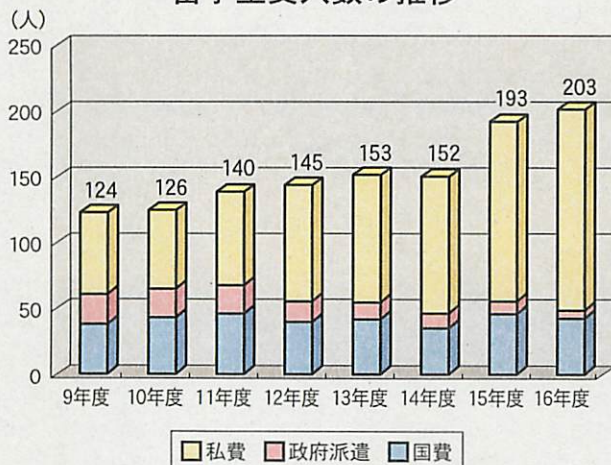
## ◆大学院生◆

番号	学部研究科	氏名	国籍	指導教員
1	人間・自然環境研究科	楊 暉 (YANG YE)	中国	仙波 光明
2	人間・自然環境研究科	張 丹 (ZHANG DAN)	中国	矢野 剛
3	医学研究科	DIL AFROZ SULTANA	バングラデシュ	高浜 洋介
4	医学研究科	王 偉 (WANG WED)	中国	曾根 三郎
5	医学研究科	鄭 恩珠 (JUNG EUN JU)	韓国	荒瀬 誠治
6	医学研究科	PARVAREH KESHAVARZ	イラン	板倉 光夫
7	栄養学研究科	KHEIRVARI SORAYYA	イラン	山本 茂
8	薬学研究科	陳 青根 (JIN CHUNGKEN)	韓国	長尾 善光
9	薬学研究科	RAMOS RODRIGUEZ FREDDY ALEJANDRO	コロンビア	高石 喜久
10	工学研究科	臧 传忠 (ZANG, CHUAN ZHONG)	中国	望月 秋利
11	工学研究科	崔 泳民 (CHOI YOUNG MIM)	韓国	赤松 則男
12	工学研究科	SAITO VAZQUEZ NOBUJI ALBERTO	メキシコ	矢野 米雄
13	工学研究科	PAREDES JUAREZ ROZA GUADALUPE	メキシコ	矢野 米雄
14	工学研究科	MOHAMED ABDEL FATTAH IBRAHIM AHMED	エジプト	任 福継
15	工学研究科	ELMARHOMY GHADA IBRAHIM	エジプト	青江 順一

## ◆研究生等◆

番号	学科研究科	氏名	国籍	指導教員
16	総合科学部	黄 杰 (HUANG JIE)	中国	矢野 剛
17	総合科学部	姜 朱亮 (KANG JU RYANG)	韓国	鳥羽 耕史
18	総合科学部	鄭 熙淑 (JUNG HEE SOOK)	韓国	岸江 信介
19	総合科学部	李 賢淑 (LEE HYUN SOOK)	韓国	仙波 光明
20	総合科学部	張 紅 (ZHANG HONG)	中国	岸江 信介
21	総合科学部	金 秀花 (JIN XIU HUA)	中国	
22	医学部	宋 鴻偉 (SONG HONGWED)	中国	大森 哲郎
23	医学部	GIZAW AFEWORK KASSU	エチオピア	太田 房雄
24	医学部	KHAMSRI BOONRUNG	タイ	足立 昭夫
25	歯学部	INTAN RUSPITA	インドネシア	野間 隆文
26	薬学部	MOHAMAD REZA MOHAMADI	イラン	馬場 嘉信
27	工学部	MARTINEZ ANTONIO AGUILAR	キューバ	伊坂 勝生
28	工学部	HOSSAIN MOHAMMAD MAMUN	バングラデシュ	津嘉山正夫
29	工学部	劉 安宇 (LIU AN YU)	中国	鎌野 琢也
30	工学部	王 蓉 (WANG RONG)	中国	矢野 米雄
31	工学部	張 羽 (ZHANG YU)	中国	任 福継
32	工学部	劉 通劍 (LIU YU JIAN)	中国	望月 秋利

留学生受入数の推移



## ◆日本語研修生◆

番号	学科研究科	氏名	国籍	指導教員
33	留学生センター	ラハマン アブ ジャヤント モハammad サリクル (RAHMAN ABU ZAYED MOHAMMAD SALIQR)	バングラデシュ	
34	留学生センター	鄭 鉉 璠 (JING, HYUN SUN)	韓国	
35	留学生センター	マクレット アハammad シャウキー (MAKLAD AHMED SHAWKY)	エジプト	
36	留学生センター	ズインガ ジョン カブオ (NZINGA JOHN KAVUO)	ケニア	
37	留学生センター	オルテガ サラマンサ ジェーザス アントニオ (ORTEGA SALAMANCA JESUS ANTONIO)	メキシコ	
38	留学生センター	トクムラ ミリアム モニカ (TOKUMURA MYRIAM MONICA)	アルゼンチン	

## 留 学 生 課

電 話 088 - 656 - 7082  
 メール ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp

## 留 学 生 セ ン タ ー

センター長	教授	市川 哲雄	(088) 633 - 7346 ichi@dent.tokushima-u.ac.jp
副センター長	教授	大石 寧子	(088) 656 - 9875 oishi@cue.tokushima-u.ac.jp
	教授	三隅 友子	(088) 656 - 7120 misumi@ias.tokushima-u.ac.jp
	教授	金 成海	(088) 656 - 7543 kin@pm.tokushima-u.ac.jp
	助教授	坂田 浩	(088) 656 - 7199 kobayasi@ias.tokushima-u.ac.jp
	助教授	上田 崇仁	(088) 656 - 9872 ueda@pm.tokushima-u.ac.jp

## 留学生の抱える問題

今週、平成16年度前期の授業料免除の結果が出て、何人かは免除されませんでした。やむを得ない結果であると思います。確かに、何年前までは私費留学生のほぼ全員が免除される時代もありましたが、現在の状況は厳しく、免除されない人数がだんだん増えてきました。しかしながら、留学生の期待感は依然として高く、自分は免除できるだろうと安易な考えをもって、授業料の用意もせずに結果をむかえた学生も少なくないと思われます。特に、新入生の場合は入学金と重なって大変厳しい状況になっている学生もいます。勿論、大学ができる限りの支援対策をとるべきではありますが、留学生自身の意識を変えることの必要性も重要で、双方の努力で問題を解決する方向に力を入れるべきであると思います。

また、留学生に対する支援策としては優秀な学生に対する支援と勉学に意欲が強くなおかつ経済的に困っている学生に対する支援をバランス良く行い、留学生のニーズにあった支援が必要であります。これからは留学生に対する授業料免除に関しても奨学金に関しても全員ではなく公平であることが問われることになるのではないのでしょうか。

相談指導部門 金 成海

(Tel:088-656-7543, E-mail: kin@pm.tokushima-u.ac.jp)

### 編集後記

学生サポーター・地域サポーターの活動で、日本語の授業に活気が増しました。留学生センターの活動をより多くの方に知っていただくため、どんなときに何がサポートできるのかをまとめた第3号です。留学生センターをぜひ、活用してください。

発行 徳島大学留学生センター

住所 徳島市南常三島町1-1

Tel. 088-656-7082 Fax. 088-656-9873

E-mail: ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp